

目次

五年生で習う

※()の中の漢字は、できかたについて説明しています。

漢字の例文一らん	3
例文①～⑤ (永・妻・示・豊・素)	7
例文⑥～⑩ (移・因・益・可・賀)	15
例文⑪～⑮ (解・義・禁・旧・災)	23
例文⑯～⑳ (際・賛・支・師・条)	31
例文㉑～㉕ (勢・設・断・比・肥)	39
例文㉖～㉓ (貧・武・保・夢・綿)	47
例文㉑～㉓ (応・仮・過・刊・幹)	55
例文㉖～㉓ (基・寄・群・個・構)	63
例文㉑～㉓ (枝・証・責・祖・増)	71
例文㉖～㉓ (像・備・液・逆・接)	79
五年生のまとめ(1)～(8)	87
答え	95

本書の特徴と使い方

あなたは漢字が好きですか？ 本書は次の四つの特徴で、漢字をしっかりと学べるように工夫しました。

○例文の中で漢字の使い方を理解できます

漢字は二字以上組み合わせ(熟語)使われることが多いですし、文章の中で使えるようにならなければなりません。この本は、その学年で勉強する漢字を五十の例文の中に全部入れています。また、例文は、理科の勉強や社会科の知識も入れています。わからない言葉(熟語)が出てきたら、国語辞典で調べてみてください。知識がどんどん広がります。

例文を読んだり、漢字を書いたりするうちに賢くなっている自分に気がつくでしょう。

○五つの例文を徹底反復学習で無理なく定着させます

漢字は一度書いたり、読んだりしただけでは覚えられません。この本では五つの例文を「三回読み」「なぞり」「読みがな」「解説」「難しい文字の書き取り(二回)」「全文書き取り(二回)」の順に繰り返し練習するようにしていますので、無理なく学習を進めることができます。

本書はページの順に以下の使い方をしてください。

- 一、例文を三回読む。まず、漢字を読めるようになりましょう。
- 二、漢字をなぞる。漢字をなぞりながら、漢字の形・読み方を確かめましょう。
- 三、読みがなを書く。漢字が読めるようになったかを確かめましょう。
- 四、古代文字などを楽しみましょう。古代文字やイラストなどの説明を読んで、漢字の書き方などを知りましょう。
- 五、漢字を書く。ちゃんと漢字の形を覚えたか確かめましょう。
- 六、この本の終わりに、学年の漢字を全部使ったテストがあります。そのテストで実力を確認しましょう。

○手書き文字がお手本になります

この本では活字ではなく、実際に書くときにお手本になるような文字を使っています。なぞったり、見本の文字として活用してください。

○古代文字の解説があります

漢字は、三千年以上も前に中国で作られました。そして、今も日本や中国で使われています。漢字は長い間使っているうちに、書きやすい字、速く書ける字、美しい字がいろいろ発明されてきました。そうやって、だんだんと字の形が変わってきました。

漢字を勉強しているあなたに、古代文字にふれてもらって、漢字がさらに好きになってもらいたいなと思って、「漢字のできかた」のページを作りました。

「いぬ」の漢字を見てみましょう。古代文字では「𠂔」と書きました。犬の形がよくわかります。でも、今の「犬」の方が書きやすいですね。「やま」も「𠂔」や「山」（二字とも古代文字）より「山」が書きやすいでしょう。漢字も一字一字、意味や読み方、書き方を覚えるための練習がとても大事ですが、ときどき、昔の字はどんな形だったのだろうと考えてみてください。きっと漢字の勉強が今までよりもっと楽しくなりますよ。

榎谷 雄三

*本書の例文は「スピード学習漢字プリント」

(榎谷雄三著・フォーラム・A 二〇〇九年)の例文を再編集致しました。